

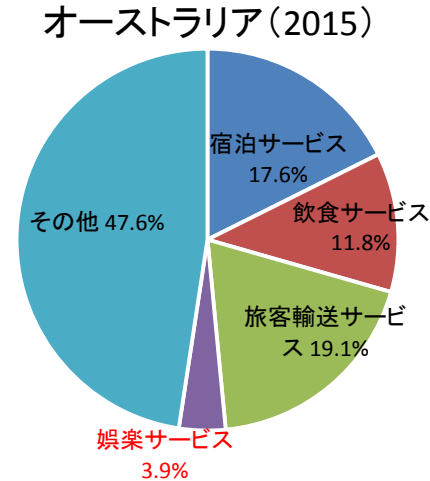
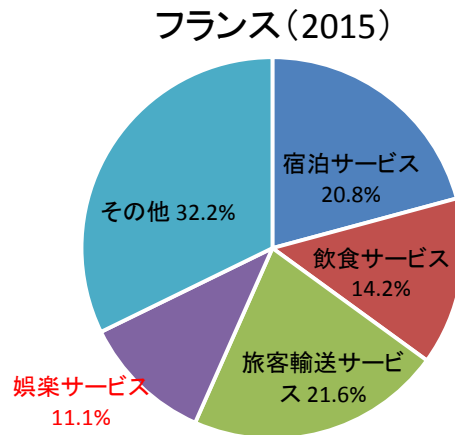
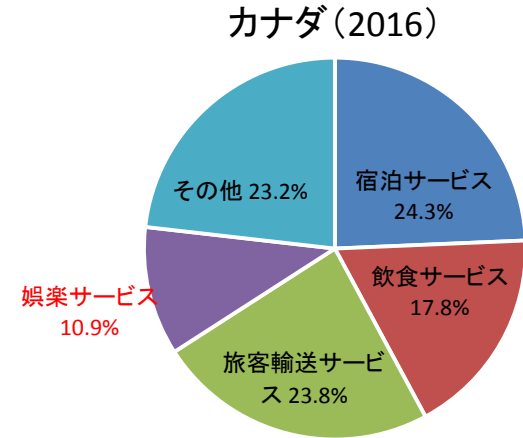
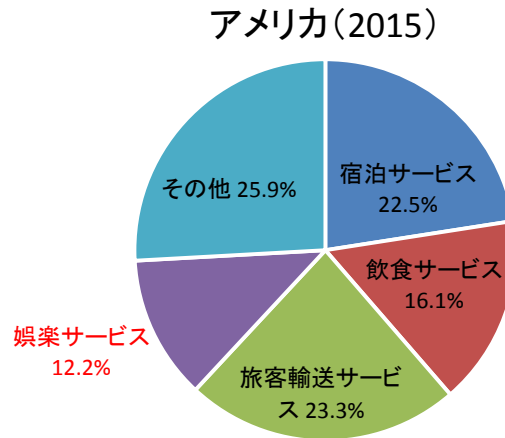
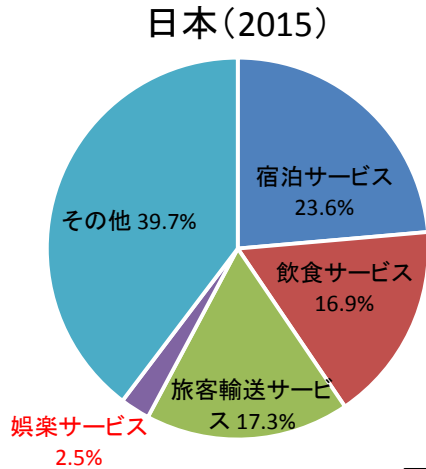
# 「楽しい国 日本」の実現に向けた 提言について

(「楽しい国 日本」の実現に向けた観光資源活性化に関する検討会議)

# 諸外国の外国人観光客の消費支出割合

- OECD Tourism Trends and Policies 2018によると、日本における外国人観光客の消費支出割合に占める娯楽サービス割合は2.5%であり、観光先進国であるアメリカ（12.2%）やフランス（11.1%）など欧米諸国に比較して、娯楽サービス割合が特に小さい。
- 本統計は、観光庁「訪日外国人消費動向調査」を基に、旅行・観光サテライト勘定に基づいた算出方法を用いており、「訪日外国人消費動向調査」の数値とは必ずしも一致していない。

諸外国の外国人観光客の消費支出割合



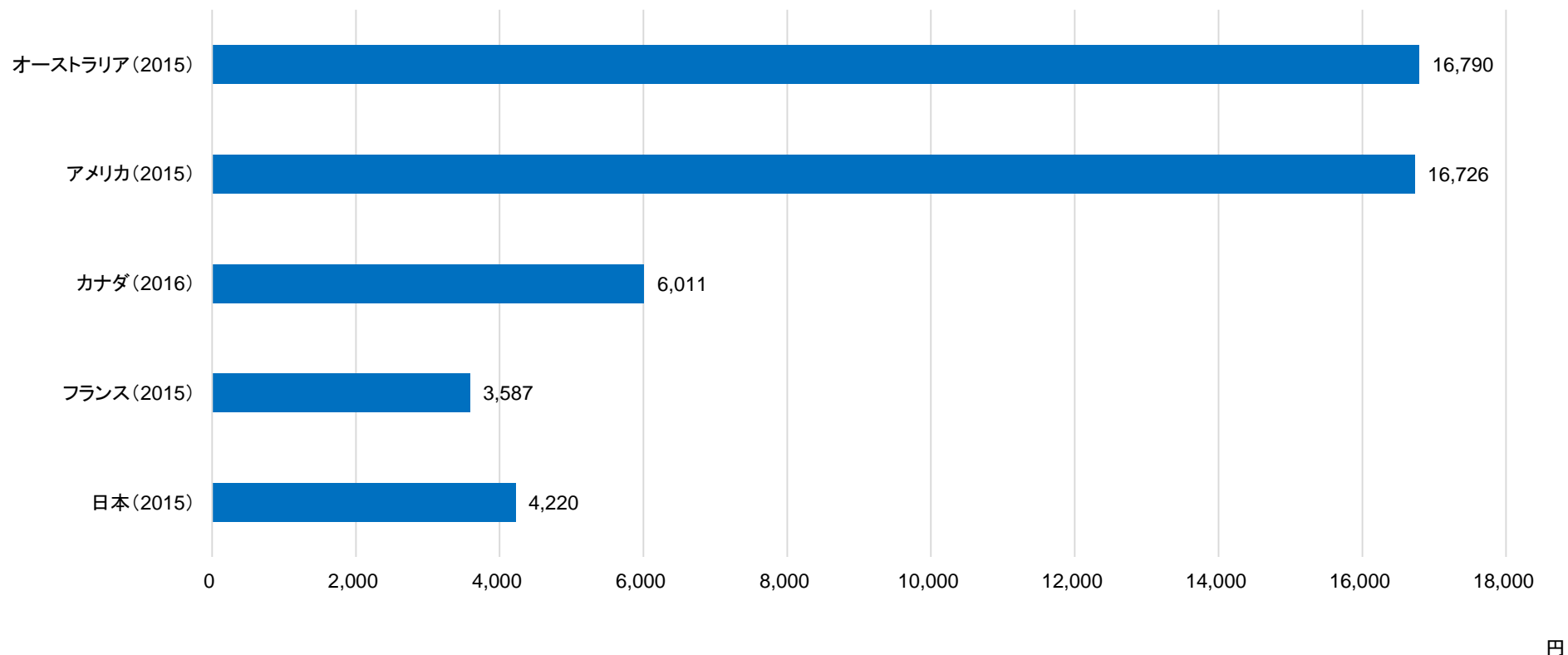
注1: 娯楽サービスは、OECDレポートの"Culture services"と"Sports and recreation services"に、"Travel agencies and other reservation services industry"を合算して算出

注2: カナダは"Sports and recreation services" オーストラリアは"Culture services"のデータなし

# 諸外国の外国人観光客1人当たりの娯楽サービスに関する消費支出額(日帰り含む)

○ OECD Tourism Trends and Policies 2018によると、訪日外国人消費動向調査の「娯楽サービス費」に相当する外国人観光客1人当たりの消費支出額は、オーストラリア16,790円、アメリカ16,726円、カナダ6,011円であり、日本の4,220円より高い。

外国人観光客1人当たりの娯楽サービス費相当の消費支出額



注1: 観光庁「訪日外国人消費動向調査」の娯楽サービス費は、OECDレポートの”Culture services”と”Sports and recreation services”に、”Travel agencies and other reservation services industry”を合算したものに相当(娯楽サービス費相当)

注2: カナダは”Sports and recreation services” オーストラリアは”Culture services”のデータなし

注3: ( ): 実績年

注4: 円換算に用いた為替レートは、三菱UFJリサーチ&コンサルティング公開の「年間平均TTS」から算出(1円未満切捨て)

注5: 本統計は、「訪日外国人消費動向調査」を基に、旅行・観光サテライト勘定に基づいた算出方法を用いており、「訪日外国人消費動向調査」の数値とは必ずしも一致していない。

総論

訪日外国人旅行消費額の増加と地方への誘客促進のためには、体験型コンテンツ市場の育成が極めて重要。



- 地域固有の「場・資源」と、宿泊、飲食等の「機能・コンテンツ」を掛け合わせ、提供するサービスの単価向上の工夫が必要。
- 流通、広告の手法として、訪日外国人旅行者向けに情報提供、決済システムの見直しが急務。
- 人材の確保・育成と安定した雇用、経営基盤の確立のため、観光産業全体の人材育成のレベルアップと、体験型コンテンツ市場育成のためのガイド人材の拡充が必要。



訪日外国人旅行消費額8兆円の目標達成に向け、世界での最高水準(オーストラリア、アメリカ)を目指す



## 各論

### 地域の観光資源を活用した体験型コンテンツの定番化

#### 地域固有の自然の活用

外国語対応可能なアウトドアガイド育成・活用の検討



#### 日本の生活・文化体験

日本文化に関するイベント情報等のオープンデータ化



#### お祭りの外国人への開放

外国人参加枠を設ける祭りの希望聴取・誘客プロモーションの実施



### 新たな体験型コンテンツの掘り起し

#### ナイトタイムエコノミー

2次交通、安心安全の確保等を検討する官民の協議会の設置



#### ビーチの活用

通年利用に向けたニーズ・課題調査、協議会の設置



### 体験型観光の充実を支える取組

#### チケット購入の容易化

観光案内所でのチケット販売の促進、モバイル対応化



#### VR・AR

訪日前・中のVRを活用したプロモーション



## 諸外国の事例

### ロサンゼルス (アメリカ)

- 散歩道やベンチ、日除け、映画の上映など多様なビーチの使用用途を有した観光地



ビーチで映画を上映する設備



日除けの下での団らん



ビーチの中のウォーキングロード



サンドアートによるくつろぎスペース

(引用等) 日本ビーチ文化振興協会提供資料

## 現状・課題および今後の対応

### 現状・課題

- 海水浴文化が根付いており、夏場の一時期の利用しか利用されていない
- 海水浴を楽しむ人や海水浴場の数も減少傾向にある
- 関係者の管理の目線による利用が中心となっているが、観光も含めた利用への意識改革が必要
- ビーチアクティビティを充実することが重要

### 今後の対応



- ビーチの通年利用に向けて、ビーチごとに異なる運営管理や規制等について現状把握と課題抽出を行うとともに先進事例の収集やニーズ調査の実施  
(観光庁、国土交通省)
- ビーチの複合的な利用促進やアクティビティの充実、通年的に利用できる環境整備、ビーチ活用に係る民間活力の導入を検討する協議の場の設置  
(観光庁、関係省庁、関係団体、民間事業者等)